

# リサ・ロイヤルの語る

## 2012年の真実

通訳 星名 一美 取材・文 生島 裕

Interpretation by Kazumi Hoshina Interview & Text by Hiroshi Ikushima



世界的なチャネラーにして宇宙情報のパイオニア、リサ・ロイヤルさんが昨年来日された。五年ぶりに来日したリサさんに、アセンションについて聞いてみた。

「日本人より日本人らしい」と言われます

— 何年ぶりの来日ですか？

リサ 1998年の夏に来たのが最後ですから、ちょうど5年ぶりです。初来日は1990年で、すでに10回近く来日しています。

— 日本という国についてはどう感じていますか？

リサ 私にとって日本は第二の故郷なんです。ですから、「日本に行きたい」という思いが、いつも心のどこかにあります。日本語はわかりませんが、これまでハートとハートのコミュニケーションで、日本の人々との交流を深めてきました。

— 過去世で日本人だったことはあるのですか？

リサ 過去世では何度も日本人だったと思います。「私って日本人よりも

日本人らしいかもね」って、よく通訳の一美とも話しているんです(笑)。

### UFO目撃体験が

### チャネラーへの道を開く

— リサさんは生まれつきのチャネラーですか、それとも何かきっかけがあったのですか？

リサ 生まれつき霊的な存在に対する感受性の強い子どもでした。小さい頃、レストランに行くと、「ここに何かいるから、早く帰りたい！」と言いつつ出ていったり、「あそここの家にはおぼけがいる！」と言っては、両親を困らせていました。

— 今のようなチャネリング活動を始めたきっかけは、1979年のUFO目撃体験でしょうか。当時、私は大学生で、心理学を専攻していました。そのときに自己催眠について学びましたが、催眠状態に入ると、エネルギーを感じる能力や、感受性が高まるのがわかりました。こうして意識体の存在を感じ始めるようになりました。

— 目撃したUFOとはどのようなものだったのですか？

リサ UFOを目撃したのは1979年10月のことで、ちょうど初雪が降った日でした。大学が休みになったので、私はニューハンプシャー州にある自宅に帰っていました。雪の積もり具合を見るために窓の外を覗いてみると、道の向こうの林の上に、大きな光の球が浮いているのが見えたのです。そこは州有林だったので、その光が民家の明かりでないことはたしかでした。

— 第三者の目でも確認してもらいたかったのですが、私は父を呼びました。父

はエンジニアで、とても現実的な人です。そしてUFOといったものは、一切信じていませんでした。

— その父でさえ、光が地球外のものだと感じました。二人で見ているうちに、光が水滴状の形に変わって、ポトンと地面に落ちました。二人で外へ出てみると、ブウウーン……という音が聞こえてきて、音がピークに達したときに光は消えました。

— その光はどのくらい大きかったですか？

リサ 100円玉を、腕を伸ばして持つて見たときくらいの大きさでしょうか。けっこう大きかったですよ。

— 何メートルくらい離れたところに出現したのでしょうか？

リサ 雑木林の中だったので距離感がつかみにくいのですが、アメリカンフットボールのフィールドの半分くらいの距離でしょうか。50メートルくらいだったと思います。

— 好奇心が旺盛な私は、すぐに現場へ行って確かめたかったのですが、父に止められて行かせてもらえませんでした。翌年その場所に行ってみると、ちょうど光が落ちたあたりは、何も無い開けた状態になっていました。

### 『プリズム・オブ・リラ』と集合意識体「ジャーメイン」

— リサさんの著書『プリズム・オブ・リラ』(ネオデルファイ刊)は、宇宙情報学の原点として世界的に大きな影響を与えましたね。

リサ 『プリズム・オブ・リラ』は、私が最初に執筆した本ですが、6週間くらいの間に、まるで空から降ってくるように情報がやってきました。

— 当時の私は、「いったい人間はどこから来たのか？」といつも考えていて、その疑問を晴らしたいと心から願っていました。私がチャネリングを続けてきた最大の理由は、私自身が抱いていた疑問への答えを得たい、という気持ちが強かったからです。そして、『プリズム・オブ・リラ』で述べたような情報を得ることによって、人類が属している宇宙の大いなる意識のことや、私たちがみんな意識の旅人だといったことがわかってきました。

— どういう情報源だったのですか？アカシック・レコードなんですか、それとも異星人なんですか。

リサ 情報源は、自分自身を「ジャーメイン」と呼ぶ集合意識体です。私はこの存在を便宜上、「彼」とか「彼ら」と呼んでいます。特に性別があるわけではありません。私が1980年代の半ば以来チャネリングしている、この存在について簡単に説明させていただきます。

地球上に住んでいる人間が、肉体を持たない意識体のレベルにまで進化したとしましょう。一人ひとりの意識が集まって集合意識体になり、さらに地球を超えた銀河系宇宙の意識の家族たちと融合すると、とても大きな意識の集合体になります。こうした意識の融合が起きると、一人ひとりの意識が体験を通して学んだ、すべての情報をあわせ持つ意識の複合体になります。ジャーメインはそういう存在なのです。

— ジャーメインは私たち自身の意識でもあります。彼らは、私たちの意識がひとつに融合した状態にある、意識の高次のレベルからの「声」だとい

えるでしょう。

「よく『アセンテッドマスターのセント・ジャーメイン』という存在について語る人がいますが、リサさんのチャネリングしているジャーメインと同じ存在ですか？」

リサ 私 が チャネリングしているジャーメインと、セント・ジャーメイン(サン・ジェルマン)は英語のスペルが違います。ちなみにジャーメイン(Germano)という言葉には、英語で「密接な関係がある」とか「同じ源から来た」といった意味があります。

「こういう名前をジャーメインが自ら選んだのは、「彼ら」と私たち地球人の意識の源が同じであることを伝えたいからでしょう。ジャーメインによると、セント・ジャーメインのようないわゆるアセンテッドマスターの意識とも、「彼ら」はつながっているそうです。集合意識体のひとつの側面として、セント・ジャーメインのような存在がいると言っていました。

「リサさんの出身の星はどこですか。リサ プレアデスと縁が深いですね。私がチャネリングする別の存在に、「サーシャ」というプレアデス人の女性があります。彼女は私の未来生でもあると言っています。また、私はシリウスとも縁が深いです。

### アセンションは一夜にして起こるわけではない

「リサさんの『アセンションの道しるべ』(ネオデルフィ刊)という本が最近出版されましたが、リサさんにとってアセンションとはどういうものなのでしょう。実際に次元が変わるとか、意識レベルが上がると

いわれていますが。

リサ いい質問をしてくれました。「アセンション」については、本当にさまざまな誤解があると、私は常々感じてきました。たとえばアメリカには、アセンションが起ると、「宇宙船が飛来して、人々をどこかに連れていってくれる」と信じている人々がいます。また、「その時」が来ると天変地異が起きて、選ばれた人だけが別の現実に移送されると考えている人々もいます。

私からすると、アセンションとは決してここからどこかへ行くことではなく、自分のさまざまな側面を、自分自身の中に統合してゆくプロセスなんです。

今の段階では、私たちの意識は分断状態にあります。つまり、知性があるわたくしと働いている一方で、感情、肉体、そしてスピリットが、それぞれバラバラに活動しているのが、一般的な人間の意識状態です。

アセンションは、こうしてバラバラになっている私たちの意識のすべての部分を統合することだと私は思います。そして、私たちが意識を統合してトータルな存在になることは、今、ここに生きるために欠かせません。

とくに肉体に意識を振り向けることが大切です。何と言っても、私たちは実際に肉体を持って、この世界に生きているわけですからね。

「アセンションとは、どこか遠くへ行くことではなく、分断状態にある自分の意識を、自分の全体性の中に統合していくことだ」そのことを伝えたくて、『アセンションの道しるべ』という本を執筆しました。世の中

には、「一夜にしてアセンションを達成したい」と思っている人々も多いようですが、これはどうやら時間がかかる進化のプロセスのようです。

### 肉体を持ったまま覚醒して生きる

「三次元から四次元、五次元へ移行する」という説もありますが。

リサ 次元のシフトは、あくまでもアセンションと呼ばれるプロセスの一部だと私は思います。先ほどお話ししたように、三次元の現実において、私たちの意識はいろいろな部分に分かれています。いわば自己分裂の状態に陥っているわけですね。それをどのように統合してトータルな存在になればいいのかがわからないので、三次元での体験はチャレンジに満ちています。

四次元への移行が進むと、バラバラだった側面が統合されていくので、前よりも覚醒した意識の状態であることができるようになります。たとえばプレアデス文明ですが、現在、彼らは四次元から五次元に移行しています。プレアデス人の場合、長い間、四次元の肉体を持って生きてきました。彼らが生きてきたのは、

「肉体を持ちながら、かなりの覚醒を保って生きられる」というレベルです。そして今の私たちは、これまでプレアデス人が生きてきたレベルに移行しつつあります。本当に私たちは興味深い時代に生きていますね。

### 2012年、

### 困難な時代は終了する

「2012、2013年にアセンションが起きるといわれていますが、

リサさんはどう思われますか？」

リサ マヤ暦が「世界が終わる年」として特定しているその年は、とても重要だと私は思っています。これまでの私たちは、分裂状態にあって葛藤の多い現実生きてきました。そうした現実のもつとも困難な時期が2012、2013年に終わり、それ以降は、統合と覚醒の進んだ存在として生きることが可能な段階に入っていくというのが私の視点です。

2012年が近づくとつれ、これまで私たちが生きてきた現実と、別の現実を隔ててきた壁がどんどん薄くなって、別の現実に住んでいる意識体たちの存在が身近に感じられるようになるでしょう。


実際、そうした変化が早いペースで起きているのを実感しています。具体的な例ですが、最近、高次の意識が存在しているエネルギースポットで撮った写真の中に、光の球体が数多く写り始めています。私からすると、光の球体はエネルギースポットにいる意識体なのですが、そういった意識体が、私や友人の撮った写真に写り始めています。

光の球体は、フィルムを使う従来のカメラで撮ったものや、デジタルカメラで撮ったものにも写っています。私からすると、これは現実の「壁」が薄くなっている具体的な徴候です。

私の日本人の友人に、プロのカメラマンがいますが、昨日、彼に写真を見せたところ、「これは決してトリックやハレーションなどではない」と言っていました。(日本語で)「おもしろいです(笑)」

リサさんの本プレゼント!

リサ・ロイヤルさんの名著『プリズム・オブ・リラ』を5名様にお贈りします。ご希望のカードの余白に希望図書名を明記の上、お送りください。2004年4月31日消印有効。『プリズム・オブ・リラ』リサ・ロイヤル、キース・プリースト共著 保科一美訳 ネオデルフィ発行 星雲社発売(1,500円+税)




THE PRISM OF LYRA  
プリズム・オブ・リラ

**profile**

リサ・ロイヤル Lisa Royal

大学で心理学を学ぶかわら、催眠療法に関心を持ち、ストレス管理の一環として変性意識状態に入る方法を習得する。1979年、家族とUFOを目撃したことを機に、地球外の文明に関心を抱く。1980年代前半、チャネリング能力を開発する集中訓練を受けて、人類と宇宙人の結びつきに関する詳細な情報を受信し始める。現在人類に連なる宇宙人文明の歴史を『プリズム・オブ・リラ』(ネオデルフィ刊)に著す。現在、急速に進みつつある人類の意識の変容と、その背景情報に詳しく、人々が日常生活で生かせる実践的な知識の提供を、活動のモットーとしている。アメリカ国内だけでなく、日本やドイツといった諸外国でも、豊富な講演経験を持つ。夫のロナルド・ホルト氏とアリゾナ州フェニックス氏に在住。ホームページ [www.royalpriest.com](http://www.royalpriest.com)

リサ・ロイヤル著 星名一美訳  
ネオデルフィ発行  
星雲社発売(1,800円+税)



アセンションの道しるべ

新刊『アセンションの道しるべ』  
リサ・ロイヤル著 星名一美訳  
ネオデルフィ発行  
星雲社発売(1,800円+税)